

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	子宮原発悪性腫瘍肺転移に対する肺切除術一どの症例で”とる”べき、“やめる”べき？—
	研究目的	大腸癌や腎癌などは肺転移を起こした場合も肺転移切除を行うことにより長期予後改善が見込めますが、一方、子宮頸がん/子宮体がんの肺転移は切除による長期予後改善効果は未だ不明確です。本研究では子宮原発悪性腫瘍肺転移切除を行うことで予後改善効果が得られるか、またどのような症例で予後改善効果が見込めるかを後方視的に解析し子宮原発悪性腫瘍肺転移切除の治療としての有用性を評価します
	研究対象者	2010年1月～2020年12月に当院呼吸器外科において、 ・術前画像検査上、子宮原発悪性腫瘍肺転移と診断され、 ・これら病変の完全切除が可能と判断し、根治的切除を企図して肺切除を施行し、 ・術後病理検査で子宮原発悪性腫瘍肺転移と診断が確定した症例。
	研究期間	西暦 2022 年 10 月 11 日～西暦 2023 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター研究責任者	呼吸器外科 足立 広幸
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川立がんセンター 呼吸器外科 足立広幸